

MEXTAGE

第57期 中間 株主通信

2025年1月1日から2025年6月30日まで

- P.1 2025年 中間期の業績振り返りと今後の事業戦略
- P.3 2025年 中間期の業績を教えてください
- P.4 TOPICS
- P.5 財務指標
- P.6 会社概要、株式の状況



社是

仕事を楽しむ

経営理念

わたしたちは「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」を信条に、自由に着想し、グローバルな事業活動を通して界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と環境づくりに貢献します。



社長に聞く!

2025 年 中間期の業績振り返りと 今後の事業戦略

先端領域に経営資源を集中し、 環境への取組みと人材育成を強化



■ AI関連投資に牽引され、概ね堅調に推移

当中間期における世界経済は、米国の通商政策における不確実性や米中対立の長期化、中東地域をめぐる地政学リスク等で先行き不透明な状況が続きましたが、わが国経済においては、雇用・所得環境の改善の動きが続く中、緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況下、半導体市場および関連するエレクトロニクス業界では、生成AI関連の旺盛な需要を見越したデータセンター投資に牽引され、先端分野への投資は堅調さを持続したものの、汎用サーバーやパソコン、スマートフォンは緩やかな回復基調にとどまり、自動運転への技術転換が進む車載関連は堅調に推移しました。

関税政策については、当社では米国向け直接取引は非常に限定的で、顧客において関税導入を見越した駆け込み需要のような大きな動きも見られず、直接的な影響はほとんど受けませんでした。

当面、世界の半導体市場は成長局面が続くと予想されますが、その牽引役は引き続き生成AI関連であると見ており、中長期視点では通信革命によるデジタル技術進展のメガトレンドは不変で、それらに向けた投資は継続されるものと見込んでいます。

■ 主力製品「CZシリーズ」は引き続き伸長

半導体を搭載する半導体パッケージ基板の銅表面処理剤として高いシェアを持つ密着向上剤「CZシリーズ」は、主力のCZ-8101を中心にAIサーバー向け半導体パッケージ基板の堅調な需要やパソコン、スマートフォンの需要回復が売上げ伸長に貢献しました。最先端の超微細化タイプであるCZ-8401の数量も着実に伸長しており、今後、さらなる需要の増加が期待できると見えています。

■ 「V-Bondシリーズ」は堅調、 「EXE・SFシリーズ」は軟調

多層電子基板向け密着向上剤「V-Bondシリーズ」は、近年需要が増えている衛星関連基板向けが引き続き堅調に推移しました。エッチング剤は、TVを主としたディスプレイ搭載のチップオンフィルム(COF)向けの「EXEシリーズ」、ディスプレイ向け選択エッチング剤「SFシリーズ」がそれぞれ関連する電子機器の生産動向を受け、ともに減少となりました。

代表取締役社長

前田和夫

北九州工場(仮称)の進捗状況と投資計画

当社は福岡県北九州市に新しい量産工場を建設中です。開設のねらいは、生成AI関連が牽引してさらなる需要が見込まれる先端半導体パッケージ基板に対応する生産体制を整えるとともに、BCP(事業継続計画)の観点から兵庫県尼崎市・新潟県長岡市の既存工場との相互補完体制を構築し、サプライチェーンの強靱化を図ることにあります。2026年12月稼働開始予定で、1年程度のテスト運用を経て本格稼働する見込みです。

当社の中期経営計画 Phase2(2025年度～2027年度)における投資計画では設備投資に約80億円を充てており、このうち約50%が北九州の新工場、残りは研究開発の設備投資や既存工場の設備増強、事業所の環境整備への投資を計画しています。

事業戦略とサステナビリティの取り組み

当社は中期経営計画 Phase2で「新技術領域でのデファクトスタンダード」を事業分野における重点課題の一つに挙げています。この方針に沿って生成AI関連や3次元実装*といった先端領域に経営資源を集中し、技術開発と市場開拓を強力に進めてシェアを獲得していきます。そのためには事業の根幹を支える人財確保と育成を最重要課題と捉えています。また、グローバル展開の方向性は変わらず、地政学リスクに鑑み、米中双方の市場にしっかりコミットしていく方針です。

サステナビリティに関して、当社は国際的な環境非営利団体CDP*による2024年の調査において「B」評価を取得し、国内サプライチェーンにおけるCO₂排出量(Scope3)の開示を始めました。これらは当社サステナビリティ報告書に掲載しています。製品面では、環境負荷を軽減する製品開発に取り組んでおり、歩留まりや生産効率の向上などを通じてお客様に間接的に寄与しています。

配当政策と自己株式取得について

配当につきましては、従来どおり安定配当を基本に、連結配当性向30%を念頭に置いております。自己株式取得は状況に応じて機動的に実施しており、直近では2025年5月12日開催の取締役会での自己株式取得に関する決議内容に基づき、自己株式の取得を行いました。

株主の皆様へのメッセージ

世界情勢が大きく変化する中であっても、当社は生成AI関連のサーバーや周辺設備等に必要最先端の薬品プロセスをお客様のニーズに即してタイムリーに提供することで、お客様に貢献している企業です。生成AIサーバーの電力使用量は従来のITインフラに比べて極めて高く、増大する電力需要が問題になっています。当社の技術は半導体パッケージ基板の小型化や、消費電力削減にも役立っており、省電力化という社会的課題にもお役に立ちすることができま。このように環境面でも社会に貢献し、皆様のご期待に応えられるよう努めてまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

用語解説

3次元実装

半導体チップを3次元(縦)方向に積層して実装する半導体技術。小型化、高性能化、低消費電力化が可能で採用が進む。

CDP(Carbon Disclosure Project)

2000年に英国で設立され、世界の企業の環境への取り組みを評価・開示している非営利団体。「B」スコアはマネジメントレベルで「自社の環境リスクや影響について把握し、行動している」と評価されたことを示すもの。



詳細はホームページ掲載の決算短信をご覧ください。
www.mec-co.com/ir/library/



2025年 中間期のポイント

押さえておきたい2025年 中間期のポイントを2ポイントにまとめています。

1 先端分野向け需要が堅調で増収に

2 「CZシリーズ」が引き続き好調



2025年 中間期の実績と通期業績予想

	2024年 12月期 中間期 2024年1月1日～ 2024年6月30日	2025年 12月期 中間期 2025年1月1日～ 2025年6月30日	増減	2025年 12月期 通期業績予想 2025年1月1日～ 2025年12月31日
売上高 (百万円)	8,882	9,387	5.7% 増	20,000
営業利益 (百万円)	2,362	2,440	3.3% 増	5,000
経常利益 (百万円)	2,641	2,493	5.6% 減	5,100
親会社株主に 帰属する 純利益(百万円)	1,890	1,893	0.2% 増	3,600
1株当たり 純利益 (円)	100.97	101.47		192.26

当社の主要薬品を紹介

密着向上剤

■ CZシリーズ

半導体パッケージ基板向けに、銅樹脂間の密着性を高める用途で使用される薬品
(最終製品例: パソコン、スマートフォン、データセンター、サーバー等)

■ V-Bondシリーズ

多層基板向けに、銅樹脂間の密着性を高める用途で使用される薬品
(最終製品例: 車、スマートフォン、衛星通信等)

エッチング剤

■ EXEシリーズ

COF(Chip on Film)基板向けに、不要な銅を溶かし微細配線を形成する用途で使用される薬品
(最終製品例: テレビ、パソコンのモニター等)

■ SFシリーズ

銅を選択的に溶かす用途で使用される薬品
(最終製品例: タブレットPC等)



業績推移および製品別・セグメント別販売動向について

Q 当中間期の事業環境と業績について教えてください

A 生成AI関連やパソコン向けが堅調、ディスプレイ向けは低調

当社グループの関係市場である電子基板・部品業界は、全般的にエレクトロニクス業界の影響を受け、概ね堅調に推移しました。データセンターにおいては生成AI関連がけん引し堅調さが持続し、汎用サーバーは緩やかな回復基調に。パソコンやスマートフォン、自動運転への技術転換が進む車載関連は概ね堅調に推移しました。

このような環境のもと、当社グループは2030年ビジョンの実現に向けた第二期である「Phase2 中期経営計画(2025年度～2027年度)」を達成するため、「創造と変革」を指針に事業活動に取り組み、高密度電子基板向け製品の開発、販売に注力いたしました。

主要製品の売上動向としましては、半導体を搭載する半導体パッケージ基板向けに高いシェアを持つ超粗化系密着向上剤「CZシリーズ」は、生成AI関連やパソコン、スマートフォン等に係る需要により堅調な結果となりました。

多層基板向け密着向上剤「V-Bondシリーズ」は、前年同期と概ね同水準となり、前年同期には最終製品需要が堅調であったディスプレイ向け「EXEシリーズ」、「SFシリーズ」は関連する製品の生産動向を受け減少となりました。

その結果、当中間期の売上高は93億87百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益は24億40百万円(同3.3%増)、売上高営業利益率は26.0%(同0.6ポイント減)、経常利益は24億93百万円(同5.6%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は18億93百万円(同0.2%増)となりました。

Q 製品別の販売状況を教えてください

A CZの需要が引き続き堅調に推移

「CZシリーズ」の売上高は60億21百万円(前年同期比11.4%増)、薬品売上高に占める割合は66.7%(同2.2ポイント増)となりました。「V-Bondシリーズ」は4億円(同0.2%減)、「EXEシリーズ」は6億27百万円(同16.4%減)、「SFシリーズ」は2億20百万円(同31.8%減)でした。

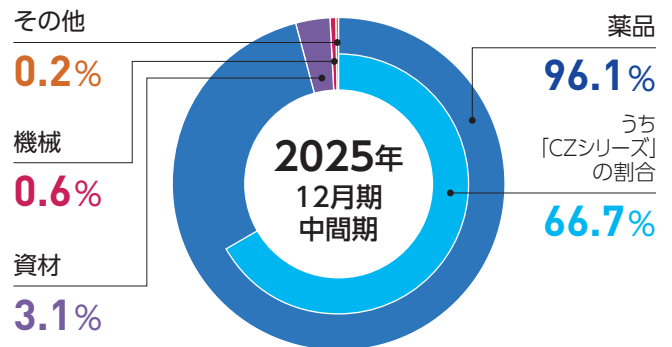
Q 地域別の販売動向はどうでしたか？

A 国内・韓国以外は前年同期比で増加

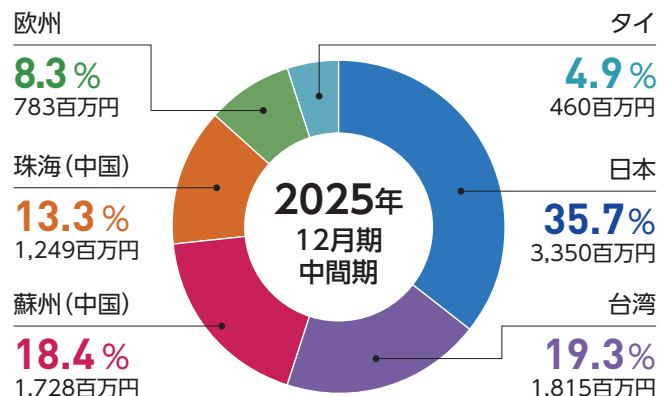
地域別売上高(連結)における海外売上高比率は66.4%(前年同期比5.0ポイント増)となりました。日本では、生成AI関連など先端

半導体パッケージ基板向け製品の需要は拡大基調で推移した一方で、機械売上が減少。日本代理店経由で販売している韓国向けにおいては、メモリ向け半導体パッケージ基板は回復基調で推移した結果、売上は前年同期比で減少しました。台湾では、先端半導体パッケージ基板向け需要の増加で、売上は前年同期比で増加しました。珠海(中国)は、スマートフォンやパソコンに関連する製品需要が好調に推移し、売上は前年同期比で増加。蘇州(中国)では、ディスプレイ向け薬品が堅調で、スマートフォン向けにおいては一時的な需要もあり、売上は前年同期比で増加しました。欧州では、顧客により需要動向に濃淡が見られるものの、在庫調整の局面から脱したこと、資材の一時的な需要により売上は前年同期比で増加しました。タイでは、電子基板メーカーの東南アジアにおける設備投資が活発化する中、車載向け製品は低調であったものの、衛星通信に関連する製品が堅調に推移したことや半導体パッケージ基板用途において当社顧客における製品の需要により、売上は前年同期比で増加しました。

売上高に占める品目別割合(%)



地域セグメント別売上高比率(%) / 売上高(百万円)



* 比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

メック製品が支える情報処理社会

情報処理社会の発展を支えるうえで、電子基板・部品の品質や生産効率向上が欠かせません。当社の多層基板向け密着向上剤「V-Bondシリーズ」は、回路である銅と樹脂との密着性を高める薬品として高信頼性かつ高性能な基板製造に寄与し、自動車やスマートフォン、近年需要が増えている低軌道衛星といった分野で採用されています。同製品は使いやすさ、基板製造作業環境等の観点から環境負荷低減にも貢献しています。

超粗化系密着向上剤「CZシリーズ」は、1995年の発売以来、半導体を搭載する半導体パッケージ基板(PKG)の高密度化・高積層化に応じて進化を続けている当社の主力製品であり、世界トップシェアを獲得しています。同製品は回路となる銅表面に超微細な凹凸形状をつくり銅と樹脂との密着性を向上させ、PKGの信頼性や歩留まり向上を支えています。機能はV-Bondと同様ですが対象となる基板が異なり、PKGの高性能化を通して、伝送損失の低減や消費電力低減という効果も生み出しています。このように、当社の製品は電子基板・部品の進化と環境負荷低減を両立し、情報処理社会の発展と持続可能性を陰から支えています。

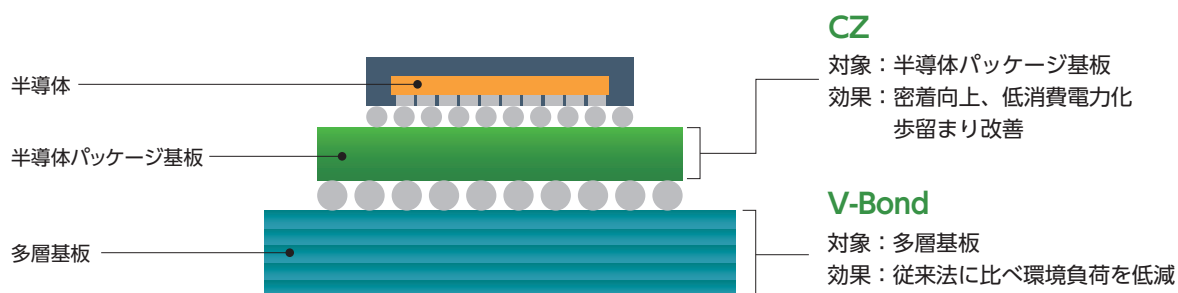
メックの電子基板用密着向上剤

■ CZシリーズ

- 半導体パッケージ基板の銅と樹脂を強力に密着。
- 微細配線や高積層化を可能とし、製造歩留まりを改善。

■ V-Bondシリーズ

- 多層基板の銅と樹脂との密着性を高める。
- 従来法より環境負荷が少なく、高い信頼性を実現。



施設見学会のご案内 2025年11月28日(金)開催



株主さまに当社へのご理解をより深めていただくことを目的に、下記概要のとおり、当社本社・尼崎事業所の見学会を開催いたします。当日は会社説明を行った後、メックの“ものづくりの現場”をご見学いただきます。

見学会への参加をご希望の株主さまは、同封の応募はがきに必要事項をご記入の上、ご応募ください。

皆さまの安全確保のため、ご応募多数の場合は抽選となります。なお、ご当選者の発表は、ご当選のお知らせの発送(10月24日発送予定)をもって代えさせていただきます。

見学会概要

開催日時：2025年11月28日(金曜日)

13時30分～(終了は16時30分の予定)

集合場所：メック株式会社 本社・尼崎事業所

兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号

募集人数：30名様

対 象：2025年6月末現在の株主名簿に記載または記録された
当社株式100株(1単元)以上保有の株主様

応募締切：2025年10月17日(金曜日)当日消印有効

前回の様子 <https://www.mec-co.com/ir/briefing/>

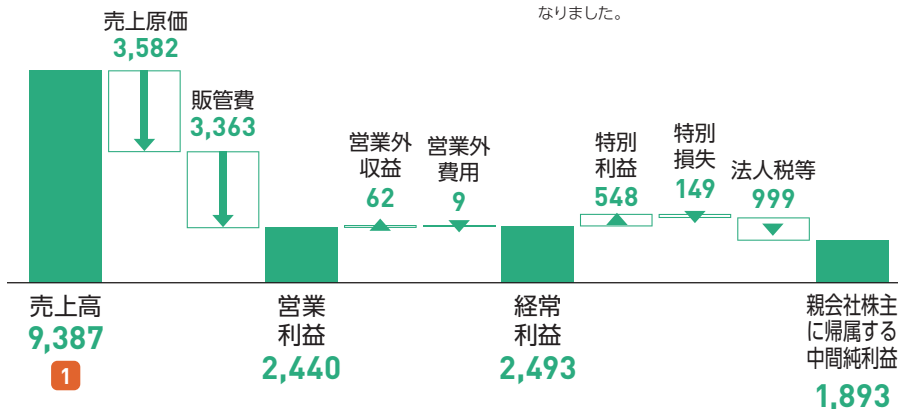


連結損益計算書の概要 (百万円)

2024年12月期 中間期
 (2024年1月1日～2024年6月30日)



2025年12月期 中間期
 (2025年1月1日～2025年6月30日)

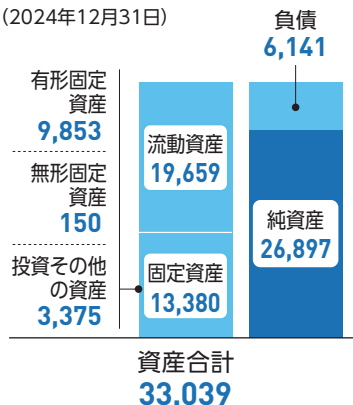


1 売上高

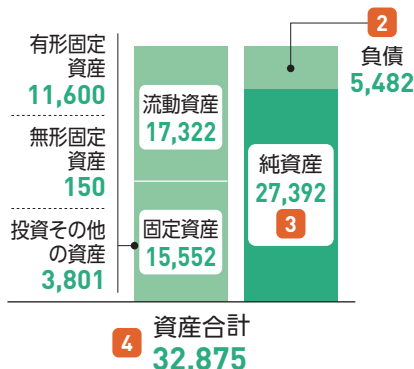
薬品売上高は90億25百万円、機械売上高は56百万円、資材売上高は289百万円、その他売上高は15百万円となりました。

連結貸借対照表の概要 (百万円)

前期末
 (2024年12月31日)

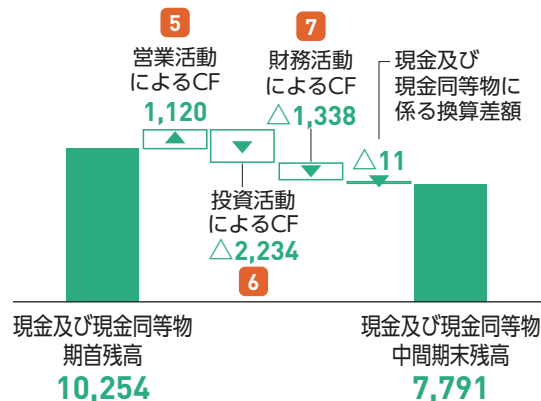


2025年12月期 中間期
 (2025年6月30日)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)

2025年12月期 中間期
 (2025年1月1日～2025年6月30日)



2 負債

負債は、電子記録債務の減少等により、54億82百万円となりました。

3 純資産

純資産は、利益剰余金が増加したものの自己株式の取得による減少等により、273億92百万円となりました。

4 資産合計

資産は、現金及び預金の減少等により、328億75百万円となりました。

5 営業活動によるCF

営業活動の結果得られた資金は11億20百万円。これは主に税金等調整前中間純利益が28億92百万円、減価償却費が3億93百万円、仕入債務の減少が5億85百万円および法人税等の支払額が9億82百万円あったこと等によるもの。

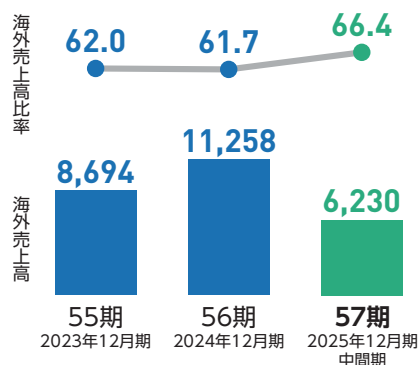
6 投資活動によるCF

投資活動の結果使用した資金は22億34百万円。これは主に有形固定資産の取得による支出が22億32百万円あったこと等によるもの。

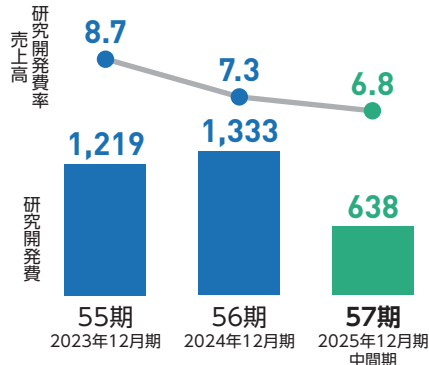
7 財務活動によるCF

財務活動の結果使用した資金は13億38百万円。これは主に自己株式の取得による支出が8億51百万円、配当金の支払額が4億71百万円あったこと等によるものであります。

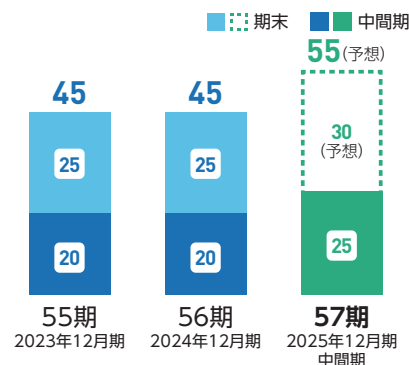
海外売上高(百万円)／比率(%)



研究開発費(百万円)／比率(%)



1株当たりの配当金(円)



会社概要

■ 2025年6月30日現在



会社概要

商号 メック株式会社
本社事務所所在地 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
設立年月日 1969年(昭和44年)5月1日
資本金 594,142,400円
事業内容 電子基板・部品製造用薬品の製造販売
および機械装置、各種資材の販売

取締役および執行役員

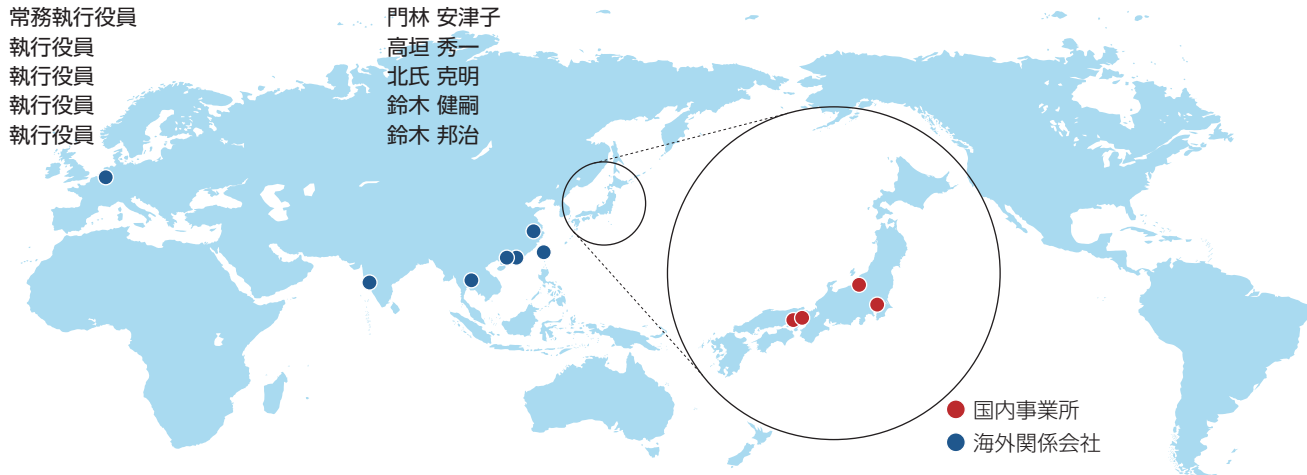
代表取締役社長	前田 和夫
取締役常務執行役員	住友 貞光
取締役常務執行役員	谷口 哲也
取締役(社外)	ルシンド ローマン 太田
取締役 監査等委員会委員長(社外)	高尾 光俊
取締役 監査等委員(社外)	橋本 薫
取締役 監査等委員(社外)	宮下 英二
常務執行役員	門林 安津子
執行役員	高垣 秀一
執行役員	北氏 克明
執行役員	鈴木 健嗣
執行役員	鈴木 邦治

国内事業所

本社・尼崎事業所
本社・東初島事業所
東京営業所
長岡工場

海外拠点

MEC TAIWAN COMPANY LTD.
MEC EUROPE NV.
MEC (HONG KONG) LTD.
MEC FINE CHEMICAL (ZHUHAI) LTD.
MEC CHINA SPECIALTY PRODUCTS (SUZHOU) CO., LTD.
MEC SPECIALTY CHEMICAL (THAILAND) CO., LTD.
MEC INDIA SPECIALTY CHEMICALS PRIVATE LTD.



株式の状況

■ 2025年6月30日現在

株主状況

発行済株式総数 **20,071,093 株**
株主数 **5,801 名**

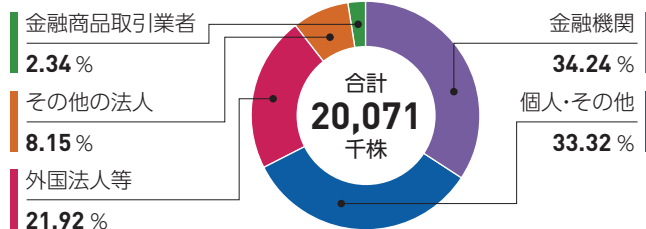
大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	所有株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,098	16.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,686	14.48
株式会社マエダホールディングス	1,199	6.46
前田和夫	726	3.91
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	637	3.43
メック取引先持株会	558	3.00
前田耕作	555	2.99
野村信託銀行株式会社(投信口)	501	2.70
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	298	1.61
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE THE HIGHCLERE INTERNATIONAL INVESTORS SMALLER COMPANIES FUND	284	1.53

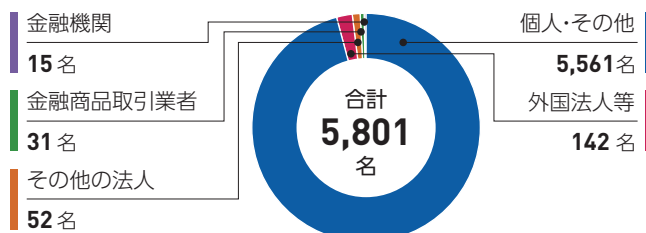
※当社は自己株式を1,519千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
※持株比率は、自己株式を除く発行済株式の総数に対する比率です。

株式分布状況

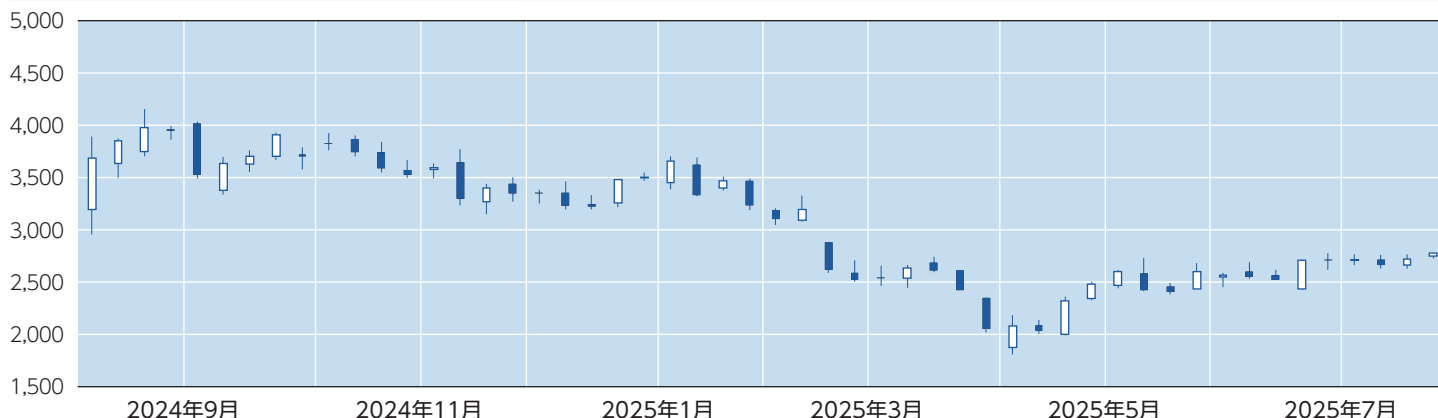
所有者別所有株式数



所有者別株主数



※「個人・その他」には自己株式1,519千株を含んでおります。
※比率は小数点以下第3位を切り捨てているため、合計しても必ずしも100とはなりません。



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金 受領株主確定日	毎年6月30日
定時株主総会	毎年3月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株式名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先※	TEL. 0120-782-031 (通話料無料) 受付時間 9:00～17:00 (土日休日を除く)
インターネット ホームページURL	www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4971
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL www.mec-co.com/ir/denshi/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

- 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
- 証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先※までご連絡ください。

株主優待情報

保有株式数	優待内容
1,000株未満	QUOカード 1,000円分
1,000株以上	QUOカード 2,000円分

*毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様を対象といたします。

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者の皆様にそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。

ご希望の株主様には、こちらのサービスの送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、RIMSNET(rims.tr.mufg.jp/)から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実に努めていきたいと考えています。

つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。

※ご提供いただきました情報は、本アンケートの集計の目的以外に使用することはありません。

ホームページのご紹介

当社のホームページでは企業情報、サステナビリティ情報、製品情報、投資家情報、技術情報等の各種情報を掲載しています。サステナビリティ報告書2025を発行しました。ぜひQRコードよりご覧ください。



メック株式会社

本社事務所/〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
TEL. 06-6401-8160 FAX. 06-6401-8165

URL www.mec-co.com/

